

## A. 主な動き

### 1. 内政

・27日、モルドヴァ社会問題担当副首相(自由党所属)は、次官任命を急ぐようフィラト首相(自由民主党党首)に提案。一方、フィラト首相は、現時点では任命をするタイミングは訪れていない旨発言。

・28日、サルブ共産党議員(憲法裁判所全権)は、ウレキャン前「我々のモルドバ」党首は法律で定められた年齢制限を超えているために会計検査院長への選出は違法とし、憲法裁判所に提訴する意向と発表。

・29日、フィラト首相は、憲法裁判所判事に任命されたタナセ法相の後任の発表は5月3日以降になる旨発言。

### 2. 経済

#### マクロ経済

・29日、経済省は、2001年から2010年にかけて、モルドバ製品の輸出量がおおよそ3倍(2001年の5億6,550万米ドルから2010年の15億8,210万米ドル)となったと発表。なお、2010年の輸出量は対前年比で22.9%増。

#### IMF

・27日、IMFミッションは、第3回目レビューのためモルドバを訪問。同ミッションは5月12日まで滞在し、第3回目レビュー後に7,900万米ドル相当のトランシェを予定(これまで2億5,900万米ドル相当がデイスパース済)。

### 3. 外政

▼27～28日、クリストフスキス・ラトビア外相の来訪  
・28日、フィラト首相は、クリストフスキス・ラトビア外相と会談。二国間政治対話、経済分野における二国間協力、沿ドニエストル問題等につき協議。フィラト首相は、モルドバの欧州統合努力に対する恒常的なラトビアの支援につき謝意を表明。

・28日、レアンカ外務・欧州統合相とクリストフスキス・ラトビ

ア外相は、両国外務省の欧州統合分野における協力に関するメモランダムに署名。

#### ▼28～29日、ルプ大統領代行のルーマニア訪問

・28日、ルプ大統領代行は、バセスク・ルーマニア大統領と会談。二国間関係、モルドバの欧州統合等につき協議。バセスク・ルーマニア大統領は、モルドバにおいて政治危機が継続する場合には、EUがモルドバに対する関心を失う恐れがある旨懸念を表明。

・29日、ルプ大統領代行は、ボック・ルーマニア首相と会談。国境間協力、インフラ建設に対する投資を中心とした二国間関係、モルドバの欧州統合プロセス等につき協議。

#### ▼その他

・27日、政府は、EU査証廃止に関する行動計画の実施に伴う立法プログラムを承認。

### 4. 沿ドニエストル

・26日、スミルノフ沿ドニエストル「大統領」は、12月に予定されている「大統領」選挙への立候補の意向を表明。

・27日、スミルノフ沿ドニエストル「大統領」は、グリシチェンコ・ウクライナ外相と会談。沿ドニエストル問題解決に関する情勢、専門家作業部会の活動に関する諸問題等につき協議。双方は、「5+2」者公式交渉の再開の必要性につき合意。

・28日、スミルノフ沿ドニエストル「大統領」は、20日～21日のモスクワ訪問の際に、ナルィシュキン露大統領府長官他から今後も沿ドニエストルへの支持を与え続ける旨の明確な表明を受けた旨発言。フィラト首相をティラスポリに招請したが未だ公式な回答が無いとし、モルドバは沿ドニエストルとの政府間対話に関心を有しておらず、建設的かつ同等な対話の準備が出来ていない旨非難。

本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。

(了)